

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女あ

女子 1回戦

会場 国府台市民体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
県立岐阜商業	15	8	—	7	郡山女子付属
		7	—	7	
		—			
		—			
		—			
		7mTC			
			14		

1回戦、岐阜商と郡山女子附となった。前半郡山女子附 2番阿久津のサイドシュートで幸先の良いスタートを

切る。岐阜商 1番黒田がワンマン速攻をセーブし、ディフェンスからリズムを作り、7番森の

ロングシュート、6番坂牧のポストシュートなどでリズムをつかんだ。郡山女子附の 7番岩谷、

5番中畑のロングシュートで応戦し、ゴールキーパー宗像がノーマークシュートをセーブするなど、

前半は 8-7 で岐阜商が 1点リードで折り返した。後半も一進一退の攻防が繰り広げられた。後半序盤に

郡山女子附の速攻 2連取で逆転し、3番上野のミドルシュート、2番阿久津の速攻での得点した。

岐阜商は 2番藪野、7番森の速攻で応戦し。残り 5分まで 1点差の好勝負となった。同点のままラスト 5秒、

岐阜商 2番アウトカットインシュートを決めたところで試合終了のブザーが鳴り、15対14で激戦を制した。

31年 3月 24日

記載者氏名 川田 和磨

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女い

女子 1 回戦

会場 国府台市民体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
昭和学院	25	10	10	洛北
		15	11	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

1 回戦、序盤から両チームともに速い攻撃を展開し、息つく暇を与えない好ゲームとなった。スローオフの昭和学院は永嶋のカットインで先制。すぐさま洛北は吉村の速攻で同点に。両チームともに DF を起点とした速攻を得点源にシーソーゲームを繰り広げる。前半 20 分過ぎ、3-2-1 DF の昭和学院のカットにより、永嶋が速攻で点数を決め、初めての 2 点差に。たまたら洛北はタイムアウトを申請。29 分過ぎに洛北が田中の速攻で追いつき、昭和学院のタイムアウト。スカイプレーでシュートまで持っていくが、洛北大平のナイスキーで前半を 10 対 10 で折り返す。

後半の立ち上がり、洛北金澤のサイドシュートでリードするものの、すぐさま昭和学院永嶋のカットインで追いつく。その後、昭和学院永嶋と小柴の 3 連続得点で 14 対 11 に。その後は互角の展開が繰り広げられる。後半 19 分過ぎ、昭和学院のタイムアウト。右サイドの高橋はシュートと見せてポスト宮代へパス。宮代はシュートを決め、その後もポストシュートによる連続得点で 4 点差となった。追いつきたい洛北は DF を高くし、田中のカットから速攻で得点する。追い上げムードとなったが、最後まで点差は詰まらず、25 対 21 で昭和学院が 2 回戦へと駒を進めた。

31年 3月 24日

記載者氏名 澤崎 亮太

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女

女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 国府台市民体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
福井商業	22	11	7	いなべ総合学園
		11	9	
		—		
		—		
		—		
		7mTC		

福井商業竹内の先制シュートから試合が動き出した。すぐに、いなべ総合小森のシュートが決まり同点となると、しばらく膠着状態が続く。均衡を破ったのは福井商業で大久保、キャプテン森國の連取で波に乗るかと思われたが、いなべ総合キャプテン高井のロングが決まり、一進一退の攻防が続いた。22分竹内のロング、7mT、ランニングシュートと立て続けにシュートが決まり前半は福井商業 11 対 7 で折り返す。後半になるといなべ総合高井の速攻、小森のミドルで追いつがるが、8分から小寺の3連取を含む5連取で16対9とリードを広げる。この後は、いなべ総合も取られたら取り返す粘りを見せたが、福井商業GK北山、高木の好守もあり22対16で福井商業が勝利を収めた。

平成 31 年 3 月 24 日

記載者氏名 泉水 孝浩

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女え

女子 1 回戦

会場 国府台市民体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
小林秀峰	29	<table border="1"> <tr><td>13</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>8</td><td>—</td><td>10</td></tr> <tr><td>1</td><td>—</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>—</td><td>2</td></tr> <tr><td>4</td><td>—</td><td>3</td></tr> <tr><td colspan="3">7mTC</td></tr> </table>	13	—	11	8	—	10	1	—	2	3	—	2	4	—	3	7mTC			28	大同大学大同
13	—	11																				
8	—	10																				
1	—	2																				
3	—	2																				
4	—	3																				
7mTC																						

1 回戦、序盤から両チームともに速い攻撃を展開し、息つく暇を与えない好ゲームとなった。運動量で勝る小林秀峰が嵯名のシュートで先制すると、体格で勝る大同大学大同が井上のポストシュートで同点に。両チームともに相手のDFに攻めあくねシーソーゲームを繰り返す。前半22分過ぎ、小林秀峰が7mスローを獲得、川嶋が冷静にシュートを決めて初めての3点差に。その後は大同大学大同が阿部のポストプレーを中心に得点を重ね、11対9と追いつける。たまたず小林秀峰はタイムアウトを申請。その後は互角の展開が繰り返され前半を13対11で折り返す。

後半の立ち上がり、小林秀峰の3-3DFが機能しパスカットからの速攻で4点差とする。高いDFに対して大同大学大同は飛ばしパスからのサイドシュートで2点差に。また小林秀峰のカットインを良く守り、速攻で同点。梅澤のサイドシュートで逆転した。その後大同大学大同中嶋、梅澤が退場するが、小林秀峰はこのチャンスを生かすことができず、21対21で後半を終え、試合は延長戦へ。

延長戦、小林秀峰はダブルマンツーマンDFを仕掛けるが、大同大学大同は中嶋のポストプレーで得点。檜垣の速攻で点差を広げるが小林秀峰外種子田がナイスセーブを連発。小林秀峰谷口がサイドシュートを決め22-23で第1延長を終える。

第2延長、小林秀峰山田が7mTを決めて同点。3分過ぎ小林秀峰谷口がサイドシュートをきめて逆転するが4分過ぎ大同大学大同蓮尾が7mTを決め25対25とし、7mTCに。

大同大学大同秋吉、小林秀峰谷口のセービングで勝敗がつかず、サドンデスとなる。

小林秀峰川嶋がシュートを決めると、谷口が再び相手のシュートを防ぎ、29対28で小林秀峰が2回戦へと駒を進めた。

平成31年 3月 24日

記載者氏名 植村 彰太

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女お

女子 1 回戦

会場 国府台市民体育館 コート

聖和学園	37	16	—	14	35	県立明石
		15	—	17		
		2	—	3		
		4	—	1		
		7mTC				

女子1回戦、県立明石のスローオフで試合開始。聖和学園6番岩淵のミドルシュートを皮切りに4点を連取する。県立明石はたまたすタイムアウトを請求。その後聖和学園はポストを絡め、2番庄司・3番平野のサイドシュートを中心に、県立明石も、6番小岩・8番内本のサイドシュートを中心に5番森西のミドルシュートを絡め得点を重ね、聖和学園が2点リードで前半を終える。後半始め、県立明石が得点のチャンスを得るが、バーに嫌われる。その後聖和学園が4連続得点を含め4点をリードするが、県立明石も盛り返し一進一退の攻防が続く。県立明石は退場者も出すが、聖和学園8番佐藤が7mスローを決めきれない場面もあり同点で後半を終える。第一延長、聖和学園のスローオフでスタート。県立明石は退場者を出す、6番岩淵のサイドシュート・4番堀内のポストシュート等で3点を取る。一方聖和学園も2番庄司のサイドシュート等で2点を取る。よって、第一延長前半を県立明石が1点リードで折り返す。後半、聖和学園2番庄司の3連続サイドシュートを含め3点差をつけ逆転に成功する。県立明石は5番森西のステップシュートで1点を返すが反撃及ばず、37-35で県立明石が激闘を制した。

31年 3月24日

記載者氏名 野間 雄太